

平成31年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立幸手桜高等学校)

E36

目指す学校像	夢を語る学校・・・・・・・・卒業後の進路を明確にし、学ぶ意義を理解させる学校 感謝を学ぶ学校・・・・・・・・地域との連携による体験学習を通じ、人の役に立つ尊さを学ぶ学校 使命感をもって巣立つ学校・・・・・社会に貢献できる有為な人材を育成する学校
--------	--

重点目標	1 基礎学力の定着を図るとともに、学ぶ意欲をもった生徒を育成する。 2 本校の特色・強みを発信するとともに、地域・外部機関と連携した開かれた学校づくりを推進する。 3 計画的・組織的な進路指導の充実を図り、進路意識を高めて進路希望の実現を図る。 4 規範意識を醸成させるとともに、学校行事や部活動などを通じて社会的に自立する力を育成する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	〔現状〕 朝学習が定着したことにより授業を熱心に取組む生徒は増えてきている。成績優良者や各種検定試験取得者は増加傾向にある。 〔課題〕 ・文理系と商業系の特色を出すこと。 ・欠点保有者や学習支援を要する生徒への組織的な対応を行うこと。 ・「朝学習」に学校全体として取り組む体制を構築すること。 現状を踏まえたうえで上記3点を課題とする。	○基礎学力の定着と授業改善の推進、学習機会の充実を図る。 ○積極的な授業公開や外部リソースを活用し、教員の授業力と生徒の基礎学力を向上させる。	①チャイム着席、落ち着いた学習環境を提供する。 ②少人数クラス展開や、習熟度授業を有効活用し、さらなる学力向上を目指す。 ③「未来学びプロジェクト」を継続的・組織的に発展させる。 ④タブレット端末や、プロジェクトを活用し、先進的な授業改善を行う。 ⑤朝学習を定着化する。 ⑥進学補講や資格取得に関する指導の充実。 ⑦学習支援員を活用し、基礎学力を定着させる。	①②③④⑤⑥⑦学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が向上したか。 ②④⑤⑥⑦成績優良者は増加したか。 ②⑤⑦成績不振者は減少したか。 ③授業公開、研究授業について近隣中学校との相互連携が強化されたか。	学校全体として、教員の授業力向上と生徒の基礎学力向上への取組を年間を通じて実践した。 ①②③④⑤⑥⑦学習指導に関する満足度は70%弱と微増。 ②④⑤⑥⑦成績優良者は150名と同程度。 ②⑤⑦成績不振者は30%減と大きく減少した。 ③近隣中学校の授業参観に積極的に参加した。また、近隣小中学校にも案内を配布し、本校で研究授業を実施。2名の参観者を招き、中高での教員交流が確立された。	B
2	〔現状〕 幸手市商工会との地域連携、共栄大学との高大連携協定を締結した。小中学校への出前授業や、スポーツ交流、地域行事への積極的参加を行っている。 〔課題〕 ・本校の様々な取組や成果について、より分かりやすく中学生や保護者、県民に発信すること。 ・地域を包括し、生徒募集に効果的な広報活動を学校全体で取り組むこと。 現状を踏まえたうえで上記2点を課題とする。	○地域行事への参加と連携による本校教育力の向上、学校説明会等による情報発信の充実。 ○隣接県中学校との連携強化や本校第2志望層へのアプローチを充実させる。	①市や大学との連携を活用し、学習機会を増やす。 ②広報部を中心に、中学校訪問や学校説明会等において、系列や進路状況等を強調して情報発信を行う。 ③情報管理部を中心に各分掌が連携することにより、HPの内容を刷新し、更新頻度を高め、効果的な情報発信を行う。 ④生徒会や商業系を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤部活動による中学校・地域との交流を実施する。	①活動を通して情報発信ができたか。 ②10月、12月時点の本校志願者が増えたか。 ③HPの更新回数やアクセス件数が増えたか。また、組織で対応する事ができたか。 ④生徒主体の地域連携活動ができたか。 ⑤学校と地域との連携・交流する機会が増えたか。	①「本校×商工会×店舗(なかパン)」の連携でオリジナル商品(桜パン)の開発が決定し、幸手市の新しい「お土産」の開発に着手。 ②10月(94→114)、12月(105→147)と増加傾向である。 ③HPの更新回数、アクセス件数ともに増加傾向で、特に部活動顧問による更新回数が増加した。 ④⑤幸手市文化祭(5団体50人)、市民まつり(5団体55人)参加。3部活動が地元小学校と7日間の交流を行った。その結果、強固な地域連携活動体制が構築され、生徒の自己肯定感も高まり、「心の教育」としての効果もあった。	B
3	〔現状〕 学校紹介による就職内定率は、ほぼ100%であり、進学実績も向上している。 〔課題〕 インターンシップや総合的な探究の時間を活用し、系列を生かしたキャリア教育をさらに充実させることを、現状を踏まえたうえで課題とする。	○計画的・組織的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。 ○生徒のキャリア意識向上のために分掌・年次・教科を横断する体制を構築する。	①手帳による活動の記録を習慣化し、進路活動に役立てる。 ②進路指導部と年次の連携により、3年間を見据えた進路活動を適切な時期に効果的に実施する。 ③生徒の進路実現に向けて、組織的に補習や面接指導等に取り組む。 ④「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を活用し、キャリア教育を充実させる。 ⑤キャリアカウンセリングの面談を繰り返し、生徒の進路意識を向上させ、進路決定時のミスマッチを防止する。	①②③④⑤学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が向上したか。 ①②③④⑤進路決定率が向上したか。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できたか。また、生徒の満足度はどうだったか。	①②③④⑤3年次生及び保護者の60%以上が満足と回答している。 ①②③④⑤就職希望者については1社目の決定率が90%を超えた。進学希望者については、募集定員の厳格化でA0入試や公募推薦で苦戦したが、進路相談等で指導を継続している。 ④学校全体として、3年間を見据えた年間計画に基づき実施した。生徒の満足度も60%以上である。インターンシップも地元企業中心の72社に204名の受け入れを依頼し、2月に実施予定。	A
4	〔現状〕 日々徹底した生徒指導を行うことにより、落ち着いた授業環境の下、学習に取り組んでいる。欠席・遅刻、中途退学者数は減少傾向にある。 〔課題〕 ・基本的生活習慣の確立と、安全・安心な学校生活を実現するため、更なる学校環境の充実を図ること。 ・入学者が減少する中で、具体的な部活動活性化策を立案し、実施すること。 現状を踏まえたうえで上記2点を課題とする。	○規範意識の醸成に向けた取組と、「時を守り、場を清め、礼を正す」の実践により、基本的生活習慣の確立を図る。	①生徒指導部を中心に、携帯安全教室や薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施する。 ②生徒指導部と年次の連携による登下校指導や整容指導、PTAと連携した交通安全指導を継続的に実施する。 ③教務部を中心に、皆勤を奨励する取組を実施する。	①生徒特別指導件数が減ったか。 ②学校自己評価アンケートで、基本的生活習慣に関する内容の達成状況が向上したか。 ③皆勤者が増えたか。	①生徒特別指導件数(14→7)と大幅に減少。 ②達成状況は70%以上を維持している。 ③皆勤者540名と20%程度増加。	A
			○中学時代の自分をリセットし、新しい環境の中から、自我を確立させ、学校生活全般に自信を持たせる。	①学校自己評価アンケートで、学校行事や部活動等に関する内容の満足度が向上したか。 ①部活動の加入状況や活動状況、県大会以上出場の数が増えたか。 ②中途退学者が減ったか。	①学校行事や部活動等に関する満足度は60%以上を維持している。部活動の加入状況は74%と微増。フープロ部が全国大会に出場するなど、県大会以上に出場する部活も増加した。 ②中途退学者数(23→6)と大幅に減少。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 2年 2月 12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習環境を整える意味で「朝学習」の取組の成果は大きいと感じている。成績不振者、遅刻者が激減するなど、来年度以降も学校全体で是非とも継続していただきたい。 ・近隣には幸手桜高校卒業生が数多く居住し、中学生の保護者としても、幸手桜高校を応援している地域住民は多い。 ・中学生と在校生が交流し、生の声を発信していくことが、生徒募集にも良い効果をもたらすのではないかと考える。 ・「本校×商工会×店舗(なかパン)」の幸手市商工会との連携は、これまで無かった取組なので、とても良い取組だと思われる。 ・インターンシップで受け入れた幸手桜高校の生徒は、何事にも主体的に動き好印象であった。 ・2年次生全員で取り組むインターンシップの成果が、卒業時の高い進路決定率に繋がっているのではないかと。 ・生徒の印象は、おとなしい生徒が多く服装等はしっかりしているという印象である。 ・近隣に対しても登下校時の挨拶が習慣化できると良い。 ・市民まつり等の地域交流にも貢献してくれているが、演劇部の「幸手市しあわせ応援大使」としての活躍に期待している。 	